

日本の花火 Q&A

Q1 日本には、いつ頃花火が伝わったの？

A 花火が日本に伝わったのは、1543 年（室町時代後期）の鉄砲伝来とともに火薬の配合が伝えられた後とされています。

当時の花火は、硝石が主体だったため赤橙色一色だったが、明治時代に入って欧米の薬剤が輸入され使われるようになってから、現在のような色鮮やかな花火が作られるようになりました。

花火の世界では、江戸時代までの花火を「和火」、明治時代以降の花火を「洋火」と呼んで区別しているそうです。

Q2 日本で最初に花火を見物したのは、だれ？

A 伊達政宗という説と、徳川家康という説があります。

伊達政宗説

居城の米沢城で、1589 年（安土桃山時代）7 月 7 日に、唐人による花火を見物したという記録があります。（『伊達天正日記』）

徳川家康説

1613 年（江戸時代初期）8 月、明国の商人がイギリス人を案内して駿府を訪ね、城の二の丸でその商人が花火を打ち上げ家康が見物したという記録があり（『駿府政事録』）、信頼できる史料での花火の初見とされています。

Q3 花火大会のときに聞こえる「たまや〜」「かぎや〜」という掛け声ってなに？

A 江戸における花火師の祖は、鍵屋の初代弥兵衛といわれています。

文化年間に鍵屋から玉屋が分家し、以来、鍵屋と玉屋の二大花火師が、両国の大川（現在の隅田川）にて川開き花火大会（隅田川花火大会の原型）で競演することとなり、花火見物から、「たまや〜」「かぎや〜」の歓声が盛んに上がるようになったといわれています。

その後、玉屋は不慮の失火により初代で断絶となりましたが、鍵屋は継承されており、株式会社宗家花火鍵屋としてホームページも開設されています。興味のある方は見てください。

Q4 西洋の花火との違いは？

A 日本の花火の特色

- ① 日本の花火の代表「菊」などの花火は、正確な球の形で開く。
- ② 花火の色が変化する。
- ③ 同心円に二重三重の花を咲かせる。
- ④ 花火玉(玉皮)は球形である。

西洋の花火の特色

- ① 均一な球形に開かない。楕円形に開くものが多い。
- ② 色の変化を起こさない。
- ③ 花火玉の形は、円筒形である。

Q5 世界で一番大きい打ち上げ花火は？

A 新潟県小千谷市で開かれる「片貝まつり」で打ち上げられる 40 号（直径 120 cm）の花火です。約 800 メートル上空に直径約 800 メートルの花を咲かせます。